

事業中評価チェックリスト

事業名		路線・河川 ・地区等名		いけぐろ 池黒(1)		施行 場所		なんようしいけぐろ 南陽市池黒					
事業名		土砂災害対策事業 (急傾斜)		路線・河川 ・地区等名		いけぐろ 池黒(1)		なんようしいけぐろ 南陽市池黒					
評価該当基準		事業中評価実施後5年間を経過した時点で継続中の事業						実施主体					
事業採択年度		H27		全体事業費(進捗度%)		2.3 億円 (59.4%)		事業延長等					
目標年度		R10		内工事費		2.0 億円 (56.2%)		崩壊土砂防止柵等 L=107.5m					
[当初目標年度]		[R5]		内用地・補償費		億円 (%)		供用延長等					
(過年度評価時目標)		(一)		内測試費等		0.3 億円		崩壊土砂防止柵 L=20m					
事業の目的(地域性・特質性) ・本箇所は、南陽市南西部に位置し、保全対象として斜面下部に人家11戸、公民館、及び市道が近接する急傾斜地崩壊危険箇所である。当該斜面には、過去の崩壊跡が多数点在し、脆弱な崩積土が多数堆積していることから、土砂災害の危険性が高い地域である。このことから、本事業において急傾斜地崩壊防止施設を整備することにより土砂災害の防止を図るものである。													
事業概要(主要工事内容) ◆主要工事:崩壊土砂防止柵 L=32.5m、重力式擁壁 L=75.0m													
事業の実施状況 ・令和5年度末で崩壊土砂防止柵 L=20.0m が完成しており、令和6年度に崩壊土砂防止策が完了する予定である。 ・工事進捗率は 56.2%である。													
上位計画、その他事業との関係(各上位計画で定めている項目を表すコード) ・第3次県総合発展計画 → 災害に強い安全・安心な県づくり(Ⅱ-3-(2)-①) ・やまがた県土未来図推進指針 → 治水・土砂災害対策の推進(Ⅰ-1) ・山形水害・土砂災害対策中期計画 → 確実に効果的な砂防関係施設の整備													
今後の事業の見通し ・残工事の崩壊土砂防護柵、重力式擁壁工事について、令和10年度の概成に向けて工事を進める。													
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ① 国、県の政策や計画の転換等 暮らしの安全・安心に直結する事業であり、政策や計画の転換はなし。 ② 財政状況の変化 平成25、26年度、令和4年度豪雨災害を受け、事業箇所数が増加し、1箇所当たりの事業費が減少した。 ③ 事業実施地域の周辺環境の変化 近年、局所的な集中豪雨が多発しており、土砂災害対策の必要性が高まっている。 ④ 地元の協力体制の変化 近年の土砂災害発生報道により、地元住民の防災意識が高まっており、早期の事業概成要望が強い。また、地元住民や地権者との協力体制は良好である。 ⑤ 利用者見込み者数の大幅な変化 保全対象施設に変化はない。 ⑥ 代替方策による必要性の変化 斜面崩壊から人命を保全する対策として、急傾斜地崩壊防止施設の整備が最も有効な手段である。 ⑦ その他 地域住民の高齢化に伴い、防災力の低下が進行しており、この観点からも防災施設の整備が急務である。													
事業の投資効果 (凡例) ● 貨幣換算し、費用便益分析における便益(B)に計上している事業効果 ○ 貨幣換算する手法が確立されていないものの、事業により得られる効果の例													
投資効果		●池黒地区の人家6戸の家屋、家庭用品被害及び人的被害を軽減する。 ○土砂災害に対する不安感を解消し、安心感が向上する。											
社会的割引率	B/C	B/Cの代表的 な分析指標		・総便益の現在価値 (B)		8.1億円							
4%	2.9												
2%(参考値)	4.2									・総費用(事業費+維持管理費) の現在価値(C)		2.8億円	
1%(参考値)	5.1												
●コスト縮減・○代替案等の可能性 ●計画時及び工事発注時に資材等の検討を行い、コスト縮減に努めている。 ○想定される斜面崩壊現象に合わせた工法の中から、現場特性を踏まえ比較検討し、最も効果的かつ経済的に優れた工法を採用しているため代替案はない。													
当初又は前回評価時目標年より延長となる場合の理由(計画どおりの場合は空欄) ・土砂災害対策事業費を予定通りに確保できなかったため。													
評価区分	継続 A	評価の理由	計画より5年遅れとなるが、事業の重要性、地域の要望・協力等を総合的に検討した結果、継続が妥当と判断した。										